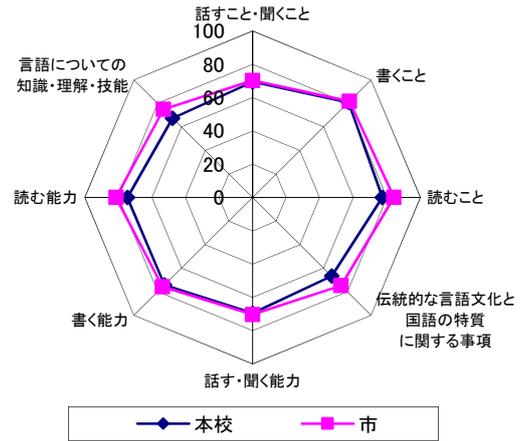


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.5	70.3	68.2
	書くこと	80.8	81.7	80.6
	読むこと	77.4	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.7	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	69.5	70.3	68.2
	書く能力	74.1	76.0	74.1
	読む能力	74.6	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	67.4	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

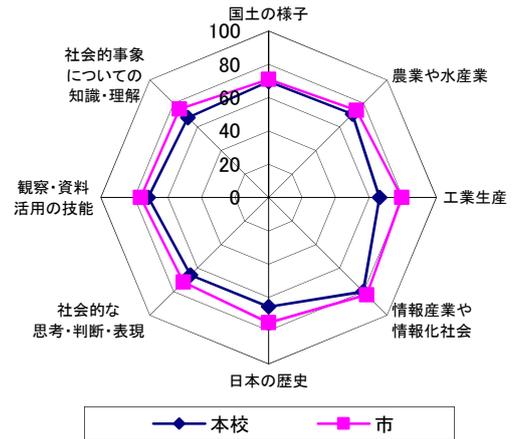
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く問題では、市の正答率を7.6%上回っている。 ●司会者の役割を理解して、計画的に話し合う記述の問題では、市の正答率を若干下回っている。	・話し合い活動において、司会者の役割を確認したり、司会者の役割を全員が取り組めるような機会を設け、具体的な言い方を指導して実践を通して理解できるようにする。
書くこと	○2段落構成で文章を書く問題では、市の正答率をやや上回っている。 ●指定された長さで文を書くことに、課題が見られる。	・行事等の感想文やお礼の手紙文などで、制限された文字数で文章を書くことについては慣れてはいるが内容についての指定を意識して書くことについては苦手な児童が見られるので、書く機会を積極的に設け、指導していく。
読むこと	○登場人物の心情を読み取る問題と、目的や必要に応じて場面への描写と登場人物の心情を読み取る問題では、市の正答率を上回っている。 ●場面の描写を読み取る問題や文章の内容を的確に読み取る問題に課題が見られる。	・図書館を利用した読書指導に力を入れていくとともに、文章中の情景から登場人物の心情を読み取る学習を繰り返し、物語の主題に迫ることができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●第4学年、第5学年の漢字の読み書きの問題が市の正答率を大きく下回っている。	・漢字の学習は、今後も継続して進めていくとともに、前学年以前の既習感じについても繰り返し復習することにより、定着を図っていく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	69.7	71.0	69.4
	農業や水産業	71.0	74.0	69.0
	工業生産	66.1	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	79.8	82.8	88.7
	日本の歴史	65.6	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.9	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	71.7	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	67.9	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

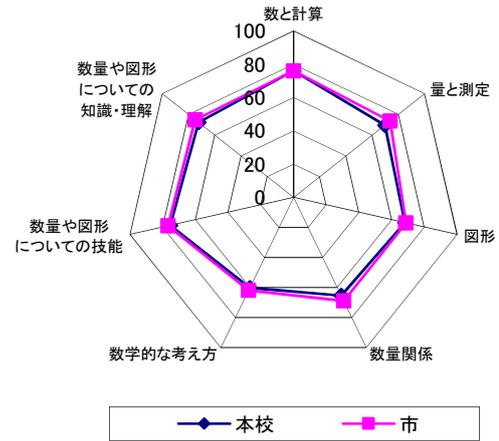
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○平均正答率は、他領域と比べて高い。 ●日本の周辺の海洋名を答える問題については、市の平均正答率を大きく下回っている。	・社会科の最後の単元「世界の中の日本」の学習で、世界とのつながりを学習するので、その際にもう一度国土の位置や周囲の海洋、近隣諸国等について復習する。 ・今後も国土の地形や気候などについて関心をもたせ、日常生活の中でも機会をとらえて指導を継続していく。
農業や水産業	○47都道府県の名称と位置の理解をもとに、日本の主な食料生産物の分布の資料を読み取る問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●稲作に従事している人々の、食の安全確保のための工夫を問う問題と日本が食料確保においてかかえる問題を資料を読み取って答える問題に課題が見られる。	・5年生の学習内容について復習する時間を設け、定着を図る。 ・資料を活用して考察する問題で課題が見られるので、地図帳や資料集を活用し、複数の資料を比較したり、関連付けたりしながら考えるよう学習活動を多く取り入れる。
工業生産	●工業製品を、工業の種類別に分類・整理する問題では、市の正答率を大きく下回っている。	・日本の食料生産や工業生産について、資料の見方や判断の仕方を指導していく。また、6年社会の最後の単元で、世界とのつながりを学習するので、その際に日本の産業の特徴や輸出入品目等について確認する。
情報産業や情報化社会	○テレビやラジオ、新聞などの情報手段について理解しているかどうかの問題では、市の正答率を上回っている。 ●医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことに関して資料を読み取って考える問題では、市の正答率を下回っている。	・情報を利用する際のメリットを、様々な職種で生かして活用している事例を挙げながら指導していく。
日本の歴史	○江戸幕府による政治の安定について、鎖国を主軸に資料を読み取って考える問題では、市の正答率を上回っている。 ●大和朝廷、古墳時代など古い時代についての問題と、日露戦争についての問題の理解が、市の正答率を大きく下回っている。	・それぞれの時代の特徴や共通点などをまとめ整理する。 ・授業の始めや終わりに時間をとり、歴史上の人物や出来事の小テストを行い、復習していく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.2	76.1	73.5
	量と測定	69.7	73.6	70.1
	図形	68.0	68.8	66.6
	数量関係	65.4	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	60.2	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	75.3	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	72.4	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

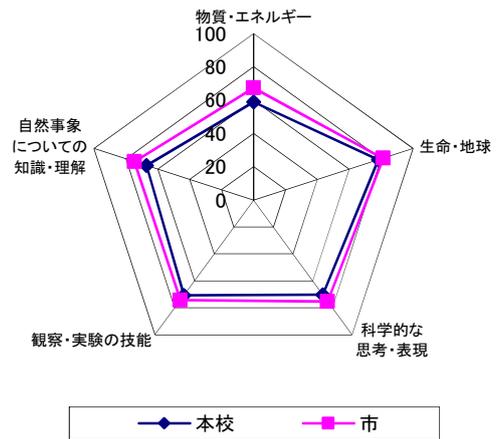
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○全体的な定着率は、市の平均とほぼ同じ。</p> <p>○小数のかけ算・わり算の計算は、市の平均より5点以上、上回っている。</p> <p>●分数の計算が定着していない。特に、除法の意味が理解できていないため正答率が低く、市の平均より5点以上下回っている。</p>	<p>・通分、約分を忘れていた児童が多いため、計算ドリルやプリントで復習をさせる。</p> <p>・朝の学習や家庭学習などで繰り返し学習し、定着をはかる。授業で、計算の習熟を図る時間を多く設ける。</p>
量と測定	<p>●面積と体積の内容が定着していない。特に、高さが図形の外にある平行四辺形の高さにあたる場所を選ぶ問題では、正答率が市の平均より10点以上下回っている。</p>	<p>・面積や体積の問題では、公式を正しく覚えるだけでなく、様々な図形の面積や体積を求める問題を繰り返し行うことにより定着を図る。</p>
図形	<p>○全体的には、市との差もほぼなく、定着している様子。</p> <p>●線対称な図形の対応する点を見つける問題が、市の平均より5点以上下回っている。</p>	<p>・デジタル教科書や模型を活用し、定着を図る。単元のまとめプリントや、ステップアップ問題で繰り返し学習をさせる。</p>
数量関係	<p>●割合と比・文字の式が定着しておらず、2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の平均より10点以上、下回っている。</p> <p>○表やグラフの読み取りは、ある程度定着している。</p>	<p>・線分図に表し、そこから立式することに繰り返し取り組み、定着を図る。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.9	67.3	64.4
	生命・地球	78.2	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	70.3	75.3	72.6
	観察・実験の技能	70.8	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.1	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●定着率が、市の平均より8ポイント以上下回っている。特に、5年時学習内容「ふりこのきまり」「ものの溶け方」での定着率の低さが目立った。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の学習内容「ふりこのきまり」「ものの溶け方」や、6年生の学習内容「水溶液の性質」の定着率が特に低く、個人差も大きかったのは、実験中心で学習が進み、結果をまとめたり結果から考察する作業を児童の主体性に任せてしまったことも原因と考えられる。プリント等で復習し、再確認したい。 ・自ら学ぶ意欲の高い児童は、ノートを工夫して記録したり、レベルの高い考察をしたりできているので、それらを紹介して、ノート作りの参考にさせたい。
生命・地球	○定着率が78.2%で、おおむね定着しているといえる。「物質・エネルギー」と比べると、定着率の個人差も小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「植物のつくりとはたらき」や「ヒトの誕生」「月と太陽」では、観察や調べたことを丁寧にノートにまとめたこともあり、定着率も比較的高かった。今後も手本となるノートを紹介したり、ノートの点検を行ったりして、学習したことを定着させていきたい。 ・中学校での学習につなげるためにも、理科で使う言語や用具を中心に再確認させたい。時間的にゆとりもあるので、特に定着率が低い単元や領域では、再度調べ学習をしていきたい。

宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の終末に、本時の課題に対するまとめを板書して確認し、一人一人が分かったことなどを振り返り、ノートに書く時間を確保している。	学習と生活のアンケートの「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問項目について、「はい」と回答している割合は、98.3%であり、ほとんどの児童が授業を理解している。日頃の授業においても「振り返り」が習慣化されてきた。
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実	・国語では、第4・5学年の漢字の読み書きの問題が市の正答率を大きく下回った。 ・算数では、「数と計算」の領域で市の平均正答率とほぼ同じ結果であり、小数のかけ算・わり算は、市の平均よりも5ポイント以上上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県の調査ともに「振り返る活動」に関する質問項目について「はい」と回答している割合は、いずれも国や県の平均よりも下回っていたが、学校全体で重点的に取り組んできた結果、「振り返る活動」の習慣化が図られ、市の調査「学校の授業がどの程度わかりますか」の質問項目について「はい」と回答している割合は、5・6年生で98%を超えておりほとんどの児童が授業を理解していると考えられる。次年度も継続して、すべての学年において、「振り返る活動」の充実に努める。

・国・県・市の調査ともに算数の「数と計算」の領域において、いずれの平均も下回っていたが、朝の学習や家庭学習の充実を図ったり「漢字・計算オリンピック」を実施したりした結果、6年生の市の調査において、小数のかけ算・わり算について市の平均より5ポイント以上上回る成果が見られた。次年度も継続して、授業改善に向けた取組や家庭学習の充実を図るなどして、基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を行う。